

# 2024 市民広島派遣報告書

～平和の尊さを体験し、伝えるために～



## 目 次

- |   |                   |         |
|---|-------------------|---------|
| 1 | 市民広島派遣に参加して ..... | 1 ページ   |
| 2 | 派遣者 .....         | 2 3 ページ |
| 3 | 行程の記録 .....       | 2 5 ページ |

**主催 平塚市**

**運営 I LOVE PEACE事業運営委員会**



平塚市では、昭和60年12月20日に「核兵器廃絶平和都市宣言」<sup>かくへいきはいぜつへいわ と し せんげん</sup>を行って以来、広く各方面に平和の尊<sup>とうと</sup>さ、大切さを訴<sup>うった</sup>えるとともに、「I LOVE PEACE」のキャッチフレーズの下に平和推進事業を行っています。また、この平和推進事業について平塚市では、市民に共に行動することを呼びかけ、これに賛同<sup>さんどう</sup>した市民団体等（平和協力団体・市民）と「I LOVE PEACE事業運営委員会」<sup>こうせい</sup>を構成し、市民の立場から各種の平和推進事業を展開しています。<sup>てんかい</sup>

「市民広島派遣事業」<sup>はけん</sup>は、この平和推進事業の一つとして、原爆投下<sup>げんぱくとうか</sup>の日に合わせて、被爆地<sup>ひばくち</sup>である広島市に市民を派遣しているものです。平和記念式典への参列<sup>さんれつ</sup>、被爆者の体験談<sup>だん</sup>、平和関連施設の見学などを通して、平和の尊<sup>とうと</sup>さ、大切さを体感<sup>たいかん</sup>し、これを一人でも多くの方々に伝えていただくことを目的とした事業です。平成4年の市制施行60周年記念事業として始めたこの事業は、今年で30回目を数えます。今回、10組20人の市民の方々を広島に派遣することができましたことを喜ばしく思います。

このたび、8月5日から7日までの2泊3日にわたる派遣事業の「報告書」<sup>こうきゅうへいわ</sup>がまとまりました。この「報告書」が、恒久平和の実現<sup>じつげん</sup>のために役立つことを願っています。

最後に、この事業の実施に当たり、熱意<sup>ねつい</sup>を持って参加していただいた皆さまに感謝申し上げます。

令和6年9月

I LOVE PEACE事業運営委員会

委員長 眞田晃子



# 1 市民広島派遣に参加して

- ・この「市民広島派遣に参加して」は、派遣者から寄せられた感想文を取りまとめ、報告書としたものです。
- ・感想文を寄せていただいた派遣者は、23ページのとおりです。（敬称略）
- ・一部、文章校正を行っています。

## （1）小・中学生の感想文

### ◎高梨 香帆

平和について深く考えることができたのは今回が初めてのことです。

最初に行った平和記念公園での折鶴<sup>おりづる</sup>の献納<sup>けんのう</sup>。

あの場所は戦争の悲惨<sup>ひさん</sup>さよりも、平和を願う人々の思いが強く感じられました。たくさん<sup>せんばづる</sup>の千羽鶴に囲まれた原爆<sup>げんばく</sup>の子の像<sup>おりづる</sup>。折鶴<sup>おりづる</sup>を掲げる少女<sup>すがた</sup>の姿からは平和への祈<sup>いの</sup>りを感じます。この像が建つきっかけとなった佐々木禎子<sup>ささきさだこ</sup>さんは被爆<sup>ひばく</sup>から十年後、白血病<sup>はっけつびょう</sup>により亡くなったそうですが、被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>には白血病<sup>はっけつびょう</sup>を発病するケースが少なくなかったそうです。

被爆<sup>ひばく</sup>から十年も経ち、せっかく楽しい学校生活を過ごしていたのに、禎子<sup>さだこ</sup>さんの気持ちが計<sup>はか</sup>りしれません。

被爆<sup>ひばく</sup>の体験談<sup>だん</sup>を語ってくださった増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さん。

私が想像していた何倍も痛々しい体験に胸が痛み、自分が増岡<sup>ますおか</sup>さんの立場だったらと考えると頭が真っ白になりました。やはり本やネットで文字を見るだけではわからない被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の生の声を聞くことができたのは、平和の尊<sup>とうと</sup>さと戦争の悲惨<sup>ひさん</sup>さをより身近に感じられる貴重な体験だったと思います。

平和記念資料館は戦争の恐ろし<sup>おそ</sup>さを身にしみて感じられる場所でした。

なかでも写真は目を背けたくなるような痛ましさでした。

全身に火傷<sup>やけど</sup>を負った人や、防火用水で息絶えた人、着物の柄<sup>がら</sup>が体にうつってしまった人もいたそうです。被爆<sup>ひばく</sup>した方々の写真<sup>と</sup>を撮った方も心苦しかっただろうと思います。

私は事前の作文で「広島で起こったことをしっかり見て、知り、平和について考えたい」と書きました。私は今回の広島派遣<sup>はけん</sup>を通して平和の裏側<sup>ひさん</sup>の悲惨な出来事を知っていなければより良い平和は築<sup>きず</sup>けないと思いました。しっかり見て、知って、考えな

ければならないのだとこの体験を経て初めて知ることができました。

## ◎日爪 こゆる

私は、この市民広島派遣<sup>はけん</sup>を通して、平和の大切さや、戦争は絶対にしてはいけないんだなと改めて思いました。

増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さんの話を聞いて、ひふがたれ下がっていたということが、正直、一番心に残りました。自分は経験していませんが、考えるだけで、怖い<sup>こわ</sup>し、気分が悪くなりそうでした。

想像するだけで、私は苦しいです。

実際に苦しい目にあった人には、幸せに暮らしてほしいです。ひふがたれ下がるといふこと以外も苦しい目にあっている人も、いるかもしれません。

その人たちの平和を願って、折りづるを折ったり、他の方々が作ったものを見たりしました。

その折りづる一羽一羽に色々な人々の思いが入っているのを考えると、被災<sup>ひさい</sup>した方々もうれしいと思います。

また、とうろう流しにも人々の平和に対する思いなどが書いてあって、戦争は、絶対してはだめ、平和な人生を送っていきたいなと思います。

今、ウクライナとロシアで、戦争をしています。今すぐ戦争をやめ、一人一人平等に平和に、暮らしてほしいと思います。



増岡清七さんの被爆体験談

## ◎長山 陽馬

僕は初めて広島に行きました。そして初めて79年前広島でおきた事を現地でたくさん学ぶことができました。中でも「ひろしま子ども平和の集い」の中の被爆体験講話<sup>かじもと</sup>で梶本さんが話してくれた事が強く心に残りました。「平和記念公園にはたくさん

のふん水がありますが、公園内のふん水には意味があるので絶対に手や足を洗ったり遊んではいけません。」という話です。なぜふん水が多いのかというと被爆<sup>ひばく</sup>した人は水を欲しがりましたが、被爆<sup>ひばく</sup>した後に急に水を飲むとショックで死んでしまうとされ、絶対に水をあげてはいけな  
となり水を求めて亡くなった人が多く、その人たちに今も水をあたえるためにふん水が公園中のいたる所にあるそうです。平和記念式典の最初にも広島県が7か所のちてんの水がささげられました。水を飲みたいのに飲めないまま亡くなった人、水をあげたくてもあげられなかった人の気持ちを思うと、とても苦しい気持ちになりました。今回参加してふん水の見かたが変わりました。みんなにも話すき  
かいがあったら教えてあげたいです。



平和記念公園内の噴水

## ◎井上 輔久

ぼくは今回の広島派遣<sup>はけん</sup>に行く前は、広島は実際にどんなところなのか、どれだけの被害を受けたのかはあまり知りませんでした。広島に行った後は、広島は軍都<sup>ぐんと</sup>でもあり、また人口が多く、とてもにぎわった場所だと知りました。そして、折り鶴<sup>つる</sup>の献納<sup>けんのう</sup>をした時は、ぼくと同じ年の佐々木禎子<sup>ささきさだこ</sup>さんが原爆<sup>げんばく</sup>のえいきょうで亡くなったことや、もう二度とこのような悲さんなことを起させないという気持ちやたくさんの人が祈<sup>いの</sup>りをこめて鶴<sup>つる</sup>を折ったのだなと思いながら献納<sup>けんのう</sup>しました。

ぼくの考える平和とは争いがなく、みんなが笑顔で平等でいられる世界です。

広島派遣<sup>はけん</sup>に参加させていただき沢山<sup>たくさん</sup>、平和について考えました。被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の増岡<sup>ますおか</sup>さんからは「幸せでいてくれ」と言われ、手をにぎり、そのあたたかさや、この想いを忘れてはいけないと思いました。平和記念式典や灯ろう流しには日本中、世界の人々が集って世界の人々の多くは平和を望み祈<sup>いの</sup>っていることを実感しました。

ぼくは夏休みが終わったらクラスのみんなにも今回経験したことを伝えて、一緒に話し合いたいです。

また、ぼくの身近にある戦争はケンカであると思ったのでそのようなことが起きてしまったら、なぜ起こったのか、起こらないようにするためにはどうすればよいかその人たちと一緒に考えたいです。

ほんとうにすてきな夏になりました。

## ◎沖山 空

僕は、広島に行って被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の話を実際に聞いたこと、袋町<sup>ふくろまち</sup>小学校平和資料館や広島平和記念資料館で実際に見て、平和とは何か？戦争とはなんなのかを更<sup>さら</sup>に考えました。広島平和記念資料館はとても怖くて嫌な気持ちになりました。

展示物<sup>てんじぶつ</sup>を長く見る事が出来ませんでした。二つの資料館を見て僕が感じたのは、袋町<sup>ふくろまち</sup>小学校の壁面<sup>へきめん</sup>に残っていた文字を色々な技術で読み解<sup>と</sup>いたという映像を見て、人が喜ぶ技術と人を悲しませる技術があると言う事です。人を悲しませる技術とは原子爆弾<sup>げんしばくだん</sup>です。人を殺す技術が発達するよりもっと人を喜ばす技術が出来たらみんなが仲良く暮らせるのにと思いました。

梶本<sup>かじもと</sup>さんの被爆<sup>ひばく</sup>体験を聞きました。梶本<sup>かじもと</sup>さんは15年戦争を体験したと言っていました。自由もなく食料もない中暮らしていたと言っていました。14歳高等女学校3年生の時に被爆<sup>ひばく</sup>したと言っていました。更<sup>さら</sup>に色々な話しをしてくれました。

話しの最後に2つのお願いをされました。①自分の命を大事にしてください。②戦争が起こらないようにしてください。核爆弾<sup>かくばくだん</sup>が使うことがないように、声を上げて行動してくださいと言っていました。僕は、その話を聞いて自分の命を大事にしていくと決めました。また聞いた話を学校の先生や友達に伝えて行きます。梶本<sup>かじもと</sup>さんの話や資料館をみて苦しかったので戦争は、絶対にやってはいけないと思います。

## ◎柳澤 大空

僕が今回、広島に行きたいと思ったのは、この国を守りたい気持ちからでした。1945年8月6日午前8時15分広島で起こった原爆<sup>げんぱく</sup>投下で多くの人々が命を落とし、被害<sup>ひがい</sup>を受けました。僕がこの話をきいたのは、見学に行った防衛大学校でも、自衛隊駐屯地<sup>ちゅうとん</sup>でもなく、学校の教室でした。「このひげきを二度とくりかえしてはなら

ない」そんな内容だったと思います。実際に広島へ行き、今の僕と同じ年の人達が建物疎開<sup>そかい</sup>というばくだんによる火事が広がらないよう家を取りこわす作業をしていて、原爆<sup>げんばく</sup>投下にあいたくさんしんでしまったと知りました。何もない山か川で友達とあそびがっこうへ行き、楽しくすごしていた様子を知り、心は今の中学生とあまり変わらないと思いました。だけど、げんばくは広しまの町も城も神社も子供も大人も動物も未来ごとこわしたのですしそんなモノをおとしたアメリカがにくいと思いました。だけど僕のはここにアメリカ人がいます。かみの色も目の色もちがいますが、僕のしんせきです。

広島にいったから、とても悩みました。そして一つのこたえが見つかりました。「罪<sup>つみ</sup>をにくんで人をにくまず」ということわざです。

げんばくはにくいけどアメリカ人をにくむのではなく、たくさんのぎせいとどりよくの上にある今の日本の平和を、何としても守る事、その考えをあきらめず伝えていくこと。二度と広島のかなしみをくりかえさないここにちかいます。

## ◎山田 彩由奈

私は平和記念式典での平和への誓<sup>ちか</sup>いがとても心に残りました。特に、「願うだけでは、平和はおとずれません。」という文が今までの自分の行動をいわれているようでした。私は学校の授業を<sup>へ</sup>経て平和について考えていましたが、自分から行動をおこしていなかったで、市民広島派遣<sup>はけん</sup>で学んだことや感じたことを友達に伝えたり、相手の気持ちを考えるなどの自分もできる小さな事から行動していきたいと思いました。また、増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さんや梶本淑子<sup>かじもとよしこ</sup>さんの体験談<sup>だん</sup>も印象に残りました。当時の日本の様子や、実際に体験したからこそ感じたことを聞けて本当に良かったです。お二人とも被爆<sup>ひばく</sup>し「死ぬ」と思ったときはとても恐<sup>こわ</sup>く、その恐<sup>こわ</sup>さは忘れられないと話していて、改めて戦争はもう二度と繰<sup>く</sup>り返してはいけないと思いました。そして、お二人とも今の人々の幸せを願



原爆の子の像

っていて、みんなが幸せだなと感じられるように相手に優しくしたり、笑顔を心がけて生きていきたいと感じました。この広島で実際に学んだことを活かして次につなげ、平和な世の中になるように行動していきたいです。

## ◎大澤 結衣

私は、今回市民広島派遣<sup>はけん</sup>に母と二人で参加しました。

1945年8月6日午前8時15分、原爆<sup>げんばく</sup>によって広島<sup>ひろしま</sup>の日常は失われました。激しい光、爆風<sup>ばくふう</sup>、熱線<sup>ねっせん</sup>、放射線<sup>ほうしゃせん</sup>が広島<sup>ひろしま</sup>のまちを襲<sup>おそ</sup>いました。今回の市民広島派遣<sup>はけん</sup>では、原爆<sup>げんばく</sup>の恐ろしさ、平和の大切さについて改めて考えることができました。

1日目は千羽鶴<sup>せんばづる</sup>の献納<sup>けんのう</sup>、旧日本銀行広島支店見学、袋町<sup>ふくろまち</sup>小学校の見学、増岡<sup>ますおか</sup>さんの体験談<sup>だん</sup>を聞きました。原爆<sup>げんばく</sup>の子の像のモデルとなっている2才で被爆<sup>ひばく</sup>し、12歳で白血病<sup>はっけつびょう</sup>になり亡くなった佐々木楨子<sup>ささきだこ</sup>さん、未来があったはずなのに大人になれず原爆<sup>げんばく</sup>により亡くなった子たちを思い、千羽鶴<sup>せんばづる</sup>を献納<sup>けんのう</sup>しました。袋町<sup>ふくろまち</sup>小学校の見学では、離れ離れ<sup>はな</sup>になった人達が連絡手段<sup>れんらく</sup>として壁<sup>かべ</sup>が使われていて、必死に家族を探したということが伝わってきました。

2日目は、平和記念式典への参列、ひろしま子ども平和の集いへの参加、灯ろう流しをしました。平和記念式典では、平和の誓い<sup>ちか</sup>に心動かされました。夜の灯ろう流しでは原爆<sup>げんばく</sup>によって即死<sup>まぬが</sup>を免れたが、そのひどいやけどを負った人たちがその熱さと痛みに耐えかねて近くの川に入り、そのまま亡くなられた方が大勢いて、その供養<sup>くよう</sup>のために灯ろう流しが始まったと調べていたので、実際に灯ろう流しに参加して、ここで亡くなった人達のことを思いつつ、平和を祈り<sup>いの</sup>ながら流しました。

3日目は平和記念資料館に行きました。原爆<sup>げんばく</sup>に関する様々な資料、展示物<sup>てんじぶつ</sup>を見学しました。

原爆<sup>げんばく</sup>が投下された場面が映像で再現されていて、広島は原爆<sup>げんばく</sup>によって様変わり<sup>さまが</sup>していったということがよく分かりました。展示物等<sup>てんじぶつ</sup>を実際に見て、原爆<sup>げんばく</sup>によって一瞬<sup>いつしゅん</sup>にして亡くなったり、苦しい思いをした様子を改めて感じました。

私が一番印象に残ったのは、93歳で被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さんの話でした。当時14歳だった増岡<sup>ますおか</sup>さん。原爆<sup>げんばく</sup>投下後、服は真っ黒ボロボロ、手の甲<sup>こう</sup>の皮はツルツルむけて爪<sup>つめ</sup>のところでダメになっていた、死ぬと思ったが死にたくないと思い、必死で逃げたそうです。実際に体験した方の話を聞いて、本で読んでいたよりもずっと現実的で、

より原爆<sup>げんばく</sup>の恐ろし<sup>おそ</sup>さを実感しました。話の最後に「幸せになってください。何があったとしても自分で命<sup>た</sup>を絶つようなことは絶対<sup>ぜったい</sup>にしないでください。」と話されていました。それを聞いて命を大切にしようと思いました。私にとっての平和は、家族がいて、温かいご飯が食べられて、楽しい会話ができるということです。この当たり前の生活ができることに改めて感謝<sup>かんしゃ</sup>しなければならないと感じました。

広島派遣を通して、原爆<sup>げんばく</sup>が広島にもたらした悲劇<sup>ひげき</sup>の実相<sup>じっそう</sup>を学び、感じ取ることができました。今回学んだことを多くの人に伝え、今後も平和について考えていきたいと思いました。

## ◎高橋 玲翔

ぼくは広島に落とされた原爆<sup>げんばく</sup>のえいきょうを実際に見るためにこの広島派遣<sup>はけん</sup>に参加をしました。広島に着いて最初につるのけんのうをしました。そこには、数え切れないほどの千羽づるがあり、たくさんの人々の思いが込められていることを知りました。

次に旧日本銀行広島支店に行きました。そこでは、ひばく時の状況をあらわしたてん示品や、ライトの光を当てるとキラッと光る、かべにつきささったガラスを見ることができました。ぼくはねっせんでとけたガラスがなぜかべにつきささるのかが気になりました。ひばくしゃの話ではやけどでひふがぼろきれのようになり、衣服



旧日本銀行広島支店 ガラス片や傷跡が残った壁

はさけとても無残<sup>むざん</sup>なすがたになっている人がたくさんいたという話を聞き、原爆<sup>げんばく</sup>の本当のおそろしさを知りました。平和記念資料館には、ひばくしゃのいひんやひばくしゃがかいた絵がたくさんあり、もしこのたいけんがぼくだとすると、すごくこわくなりました。もうすでに何人かの人に広島<sup>ひろしま</sup>のたいけんを伝えています、今後はもっともっとたくさんの人に伝えてその人がまた次の人また次の人につたえていっ

たらしいとおもいます。きちょうなけいけんをさせていただきありがとうございます。ごさいました。

## ◎田中 めい

私は増岡<sup>ますおか</sup>さんの話を聞いて、なぜ戦争が起こったのか改めて知ることが出来ました。また、増岡<sup>ますおか</sup>さんの話を実際に聞いたあと、平和記念資料館で実際の写真を見て、改めて戦争の怖<sup>こわ</sup>さと原爆<sup>げんぱく</sup>の怖<sup>こわ</sup>さを知りました。原爆<sup>げんぱく</sup>は被爆<sup>ひばく</sup>後に症<sup>しょう</sup>状<sup>じょう</sup>がすぐでないことがわかりました。佐々木禎子<sup>ささきさだこ</sup>さんのように、10年後に症<sup>しょう</sup>状<sup>じょう</sup>が出ることも知りました。広島へ着いてすぐに折り鶴<sup>づる</sup>を献納<sup>けんのう</sup>しました。その場所の「原爆<sup>げんぱく</sup>の子の像」が佐々木禎子<sup>ささきさだこ</sup>さんだと初めて知りました。平和記念公園の周りには色々なところに折り鶴<sup>づる</sup>が置いてありました。私はひいおばあちゃんが亡くなり、千羽鶴<sup>せんぱづる</sup>を作りました。自分が千羽鶴<sup>せんぱづる</sup>を作ったので献納<sup>けんのう</sup>と原爆<sup>げんぱく</sup>の子の像に少し関心を持ちました。また、8月6日の平和記念式典では色々な国の方が参列して、世界恒久<sup>こうきゅう</sup>平和<sup>いの</sup>を祈っていると思います。夕方の灯ろう流しもたくさんの国の方が参加していました。

広島派遣<sup>はけん</sup>で感じたこと、思ったこと、戦争の怖<sup>こわ</sup>さや原爆<sup>げんぱく</sup>の怖<sup>こわ</sup>さを学校の友達や親せきに伝えたいと思います。広島での出来事を風化させないようにしたいと思います。また、平和についてこれからも考えていきたいと思います。

## （２）保護者の感想文

### ◎高梨 大志

『平和』という言葉は、人それぞれ感じ方、捉<sup>とら</sup>え方のイメージが違<sup>ちが</sup>います。

そして、年をとったり、自身の環境<sup>かんきょう</sup>が変わったりすることに連れて、感じ方や捉<sup>とら</sup>え方も変わってくると思います。

私は、過去に3回広島に訪問したことがあります。毎回、被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の方のお話を聞いたり、記念館を訪問したりして、戦争の悲惨<sup>ひさん</sup>さや平和の尊<sup>とうと</sup>さを友人たちと共有して学んできたつもりでした。最後に広島を訪問してから20年以上経ち、3人の娘<sup>むすめ</sup>の父親になりました。

いつか子どもを広島に連れて行きたい、一緒<sup>いっしょ</sup>に平和について考えたいという思いを長年持っていました。そして、今回体験したことすべてが過去と違<sup>ちが</sup>う見方であったと感じました。

幼い少女たちの被爆<sup>ひばく</sup>の写真や当時のお話を聞くと、若い頃に感じた目線と異なり、親の目線になっていることに気づきました。そして、被爆<sup>ひばく</sup>した一般<sup>いっぱん</sup>の方々の幸せだった日常を思い浮かべると、涙<sup>なみだ</sup>が止まりませんでした。

本派遣事業<sup>はけん</sup>に参加させていただき、平和記念式典に子どもと参列させていただいたこと、もう実際聞くことが難しいだろうと考えていた被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の方の生の声を聞くことなどは、本事業に参加しなければできないことであり、とても貴重な経験でした。

若い世代はもちろんですが、親世代も直接体験し、平和の大切さを子どもたちに語り続けていくことが重要だと思わせてくれる旅でした。

## ◎日爪 康介

被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>の増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さんの「命を大切に」、「自ら命を捨てるような事はしないで」というお言葉は、平塚に戻った後、今でも戦争<sup>ほうとう</sup>の報道<sup>たひ</sup>を見る度に回想し、心が動きます。  
娘<sup>むすめ</sup>が書いた応募文を見て、子どもが海外で起きている争い<sup>おそ</sup>に恐れを抱<sup>いだ</sup>いていること、すでに日本で起きるかもしれないと考えていることを知った上で広島を訪れました。  
79年という年月は復興<sup>ふっこう</sup>した街並み<sup>まちな</sup>を見れば遠い昔の事のように思えましたが、原爆ドームをはじめ、多くの遺構<sup>いこう</sup>を訪問させていただき、多くの人の話や平和への想いを何度も派遣中<sup>はけん</sup>に感じていくことで、戦争がついこの前に我が国で実際に起きたことを再確認しました。我々親世代にできることを考えますと、子ども達世代が、武力や戦争に怯えながら生きていく世界にならないよう、まずは自らの社会生活の送り方を見直し、周囲<sup>しせい</sup>の話を聴く姿勢や、身近に起こる些細<sup>ささい</sup>な争い事<sup>ていねい</sup>に丁寧に対応する態度<sup>たいど</sup>がとれているか、自省<sup>じせい</sup>することです。今回の派遣<sup>はけん</sup>で同じ時間を過ごした、各ご家庭の皆さん、子ども達と共に、戦争を体験した方の想いや願いを、身近にいる人に伝える事が一番大切である事を再認識しました。元々動物など生き物が大好きな娘<sup>むすめ</sup>ですが、今回の派遣<sup>はけん</sup>を通じ、世界中の人類の命、生物の命の尊<sup>とうと</sup>さについて一層深く感じ、考える時間を過ごしました。親子で学ぶという事で、大人になっても学び続ける事の大切さを、娘<sup>むすめ</sup>が感じてくれたら少し嬉しいですし、今後も大人の学びを続けたいと思っています。素晴らしい機会を作っていただいた、I LOVE P E A C E 事業運営委員会、平塚市、残暑<sup>ざんしょ</sup>の中、一生懸命<sup>けんめい</sup>ご案内してくださった市職員<sup>しよくいん</sup>の方に感謝<sup>かんしゃ</sup>申し上げます。縁<sup>えん</sup>あって一緒に派遣<sup>いっしょ</sup>された各ご家庭の皆さんとのつながりを大切に、平塚市民として、平和な街づくり<sup>まち</sup>に少しでも貢献<sup>こうけん</sup>していきたいと思っています。

## ◎長山 智子

2024年8月6日午前8時15分せみの合唱が響く、とっても暑い日でした。79年前の同じ日はどうだったのかな。と思いながら式典に参列し、黙祷をしている間、慰霊碑に刻まれている言葉「安らかに眠って下さい 過ちは繰返しませぬから」と心の中で繰り返していました。

前日に被爆した建物を見学し被爆者の方の貴重なお話を聞き、現在の広島からは全く想像出来ない悲惨な状況だった事を知ってからの参列だったので「過ちは繰返しませぬから」の言葉が強く心に残りました。今回市民広島派遣団に参加し、色々な体験をさせていただきましたが、私が特に心に残った事は被爆者の増岡さんの言葉でした。

- ・死を覚悟した時の恐怖は今も忘れていない。
- ・死にたくないではなく、生きたい!!と思う事が大切。
- ・人間として生まれてきたからには、人を殺めてはいけない。自ら命を絶ってはならない。
- ・親から与えられた肉体を傷つけてはいけない。

あの一面焼け野原になって見たくもない地獄絵図の様な日々をとにかく生きたい!!と願って生き抜いた人からの生きた言葉が心に刺さりました。そしてこの言葉は今を生きる私達にも必要な言葉だと思いました。

戦争、平和、核兵器、被爆どれも聞いた事がある言葉でしたが、今回怖さ、尊さ、恐ろしさ、悲惨さを改めて考えさせられました。「行動は言葉より有弁だ」この言葉の意味を考え、自分に出来る事はとにかく行動しようと思いました。

## ◎井上 由貴子

以前から子供達と広島へ行き、「ヒロシマ」について一緒に学びたいと考えていました。実際に広島に行かせていただき、「ヒロシマ」は想像どおり私達に多くのことを学ばせてくれました。

折鶴の献納ではすでに献納されている鶴の多さに、平和記念式典や灯籠流しでは世界中の人が集まり一緒に平和を祈る姿に「多くの人が平和を望んでいる」と言うことを実感いたしました。

被爆者体験談では増岡さんが本来なら思い出したくないであろう辛いご自身の経験をお話しくださり、心が痛くなりました。そして、「幸せでいてください」と私た

ちに何度もかけてくれた言葉やそこにある熱い想いはホテルに帰ってから息子と平和について話すきっかけになりました。

また、袋町ふくろまち小学校に残された親が子を探すために残された多くの伝言や平和記念資料館に展示された家族の遺品いひんには一瞬いっしゅんのうちに消えてしまった家族を「無事であってほしい」と探し続ける必死さ、見つけられなかった子供の残したもの（衣服・カバン・弁当箱など）をずっと保管し続けて待っている母の姿など同じ家族を持つ者として、母として大きなショックを受けました。

広島で多くのことを肌はだで感じると同時に、今ある日本のこの平和な生活はこの辛い経験つらいをしてきた人々が守ってくださった「平和」であり、それを受け継ぐのは私達であるという使命感を持ちました。

私は年に十回ほど小学校で読み聞かせのボランティアをしています。今年度は六年生を担当しているので、今回の体験の話と現地で頂いた「被爆体験記朗読会」ひばくたいけんきろうどくかいの一部を読んでみることを考えています。

最後に、今回市民広島派遣はけんに参加させていただき関係者の皆様には深く感謝かんしゃいたします。親子で多くを感じ学びあえる夏になりました。



ひろしま子ども平和の集い 被爆体験詩の朗読

## ◎沖山 友子

28年前に参加させてもらった市民広島派遣はけん。今回親となって息子むすこと参加させていただき親子で戦争をする事とは？平和の基準きじゅんとは、と話し合うきっかけになりました。今年の3月に国立競技場こくりつきやうぎじやうにて行われた、『未来アクションフェス』に参加しました。気候変動きこうへんどうと核問題かくについて学んで来ました。参加したことにより戦争について、核問題について理解を深めてきたと思いましたが、今回再度広島に行かせてもらい、資料

館や被爆体験など聞き見て、更に『ひろしま子ども平和の集い』に参加して、発表する小中学生の意識の違いにびっくりさせられました。実際に被爆した家族を持つ小中学生は本当に自分の事のように捉えていて行動し声に出して動いている事、戦争を起こさないようにするために身近なところから考えていることに衝撃を受けました。中でも、広島市立の中学校の取組の発表は画期的だと思いました。内容は、『いじめ防止宣言』でした。気づき、相手を思いやる心の大切さについてでした。この小さな取組から初めて行けば、引きこもりや孤立、不登校、発達障害への偏見等、防げるのではないのかなと感じました。ひとつひとつの積み重ねにより戦争を防ぐことはできるのではないのでしょうか。

式典で、広島市長の話に出ていた、ゴルバチョフ元大統領。私の通っていた学校の創立者との対談の中で、「平和とは一面、『忘れないこと』であり、『忘却との戦い』である」と書いてありました。私も実際に聞き、見てきたことは現実にあったこと。絶対に忘れてはいけないし、伝えていかねばならないと、戦争を絶対にしてはいけないと思います。

## ◎柳澤 八重子

私が小学生だった頃、叔母が結婚する事になり、祖父の家に行きました。

結婚相手はアメリカの方で、戦争に行った祖父は一言も話さず、子供心に何も言えず、目の前の食事にも手を付けられなかった出来事も空気感と共に鮮明に憶えています。

それが終戦から30数年後の事でした。

今回、息子と共に広島へ行き、戦争の痕跡を見るにつけ、そこそこであの時の祖父の顔が思い出され苦しく、切ない気持ちになりました。ですが大きな救いがあります。

叔母もその子供、その孫もアメリカで幸せに暮らしている事です。

戦争というものは、それだけで永く永く遺恨を残してしまうのだと感じています。

私は、戦争を知らず、広島の悲劇も深く感じないまま、離れた地域で、異なる背景を持ち暮らしていますが、広島の出来事は全ての日本人、全ての人類にとって重要な教訓であると思いました。

原爆ドームや旧日本銀行広島支店、平和記念公園などでの空気感、それらが発する無言のメッセージには、平和への誓い、失われた多くの命への追悼の意があり、その

場に立つ事で平和の重みを改めて感じました。

しかし、世界では戦争や紛争<sup>ふんそう</sup>が続いています。我こそはと核<sup>かく</sup>を保有し続け、正当性<sup>せいとうせい</sup>を主張。これらの現実を決して他人事と思わず、一人ひとりが平和の<sup>ため</sup>にできる事を考え、行動し「ノーモアヒロシマ」の思いと責任<sup>せきにん</sup>のバトンを次の平和の<sup>ため</sup>に担い手へと繋ぐ努力を続けようと思いました。この度は、貴重な機会<sup>きんげん</sup>を頂きありがとうございます。ありがとうございました。

## ◎山田 優子

私は広島を訪れたことがないまま大人になってしまいました。戦争や原爆<sup>げんぱく</sup>投下の事実を知っていても、そこから深く学び考えることをずっとしてきませんでした。「戦争は、ダメ！絶対！」と言うことは容易<sup>たやす</sup>いですが、果たしてそれで平和を愛するために自分に何ができるか？考えたことにはならないのではないかと、とも思っていました。

79回目の8月6日を<sup>むか</sup>迎えた広島朝はとても早く、朝6時30分に宿を出るとすでに多くの式典参列者の方々が会場に向かわれていました。手荷物検査を受けるために会場に着くと、静かに<sup>たたず</sup>佇む外国人女性の手には「恥<sup>はじ</sup>を知れ！」というプラカードがありました。

「えっ？日本が？」と思わず二度見をしてしばらく混乱<sup>こんらん</sup>しましたが、そのことが「核<sup>かく</sup>の<sup>かさ</sup>傘の下の日本」という意味なのだと思います。

唯一<sup>ゆいいつ</sup>の被爆<sup>ひぱく</sup>国として「こんな思いを誰にもさせてはならない。」と原爆<sup>げんぱく</sup>の被害<sup>うった</sup>を訴える一方で、「核は持っていたいけど、使われたくない。」という日本。こうした矛盾は、何も戦争に限らず様々な場面で大人の社会にはあると思います。しかし、「自分（達）が大事だと思うことを、何度でもあきらめずに<sup>うった</sup>訴え続ける。」そのこと自体に意味があり、その運動が多くの人々に感銘<sup>かんめい</sup>を与えた結果が、世界中から人々を集めてメッセージを発信し続けることができる、今日のヒロシマなのだと思います。

ご高齢<sup>こうれい</sup>のため「今年で最後にしたい」とおっしゃいながらも、精力的<sup>せいりよくてき</sup>に被爆<sup>ひぱく</sup>体験<sup>こうわ</sup>講話<sup>こうわ</sup>を続けていらっしゃる増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さんは「どんなことがあっても、自分で命を絶ってはいけない。自分だけでなく困っている人に救いの手を差し伸べられる人になってください。長い人生を幸せに生きてください。親から与えられた肉体を傷つけてはならない。」とおっしゃいました。また、「ひろしま子ども平和の集い」で原爆<sup>げんぱく</sup>被害<sup>ひがい</sup>の惨状<sup>さんじょう</sup>を表現した多くの絵を紹介しながらご自身の体験を話してくださった梶本<sup>かじもと</sup>淑子<sup>しよこ</sup>さんは

「少々<sup>まず</sup>貧しくても、家族がそろって、子供が笑顔で食事ができるのが平和だと思います。」とおっしゃいました。

「市民広島<sup>はけん</sup>派遣」に参加させていただいて個人旅行では体験できないようなとても貴重な機会をたくさんいただいて、「世界平和のために何が必要なのか。」についてじっくり考えました。世界を見る前に、まずは自分の家庭から。家族を愛し、家族と過ごす時間を大事にすること。そして、少しずつ友人や職場の人々へその輪を広げて「自分と違う意見を<sup>ちが</sup>尊重し、<sup>そんちよう</sup>違いを認め、<sup>ちが</sup>そして考える。」ことをあきらめずに続けること。それが自分なりにできる「平和」なのだと確信しました。

広島の人々が80回目…100回目…200回目の8月6日を迎えていくように私もたゆまぬ努力を続けていきます。

最後に、この貴重な機会をくださった平塚市役所の皆様、とりわけ我々をサポートし続けてくださった職員<sup>しよくいん</sup>の方に深く感謝<sup>かんしや</sup>いたします。どうもありがとうございました。これからもこの素敵<sup>すてき</sup>なプロジェクトを続けていただけたら、とてもうれしく思います。

## ◎大澤 美幸

私は今回79年前の原爆<sup>げんばく</sup>について親子で一緒に<sup>いっしょ</sup>考えてみたいと思い市民広島<sup>はけん</sup>派遣<sup>おうば</sup>に<sup>むすめ</sup>応募し、娘と参加しました。

実際、広島に行って、原爆<sup>げんばく</sup>ドーム、袋町<sup>ふくろまち</sup>小学校、自由時間で見学した本川<sup>ほんかわ</sup>小学校、しっかりと建物がこんなにボロボロになってしまうこと、その他の建物は爆風<sup>ぼくふう</sup>、熱線<sup>ねっせん</sup>で形を残さなかったことが見てわかりました。頑丈<sup>がんじょう</sup>な建物がこんなになってしま

まってはそこにいた人たちは…と考えると原爆<sup>げんばく</sup>の恐ろしさ<sup>おそろしさ</sup>を実感しました。被爆者<sup>ひばくしゃ</sup>体験<sup>だん</sup>談では、93歳の増岡清七<sup>ますおかせいしち</sup>さんの実際の体験を聞きました。増岡さん自身も左側の皮膚<sup>ひふ</sup>が垂れ下がり3～4か月生死をさまよった中で、死にたくないと強く思い生きたとのことでした。「命は神が与えてくれ



広島平和記念資料館の見学

たもの、自ら命を絶ってはいけない、人を傷つけてはいけない、ゆめゆめ大切にしてください。自分が幸せでなければ周りの人も幸せになれない、困っている人に救いの手を差し出してください、争いをなくしていくものになります。平和な時代に原爆<sup>げんばく</sup>は使われません。幸せになってください。」と地獄<sup>じごく</sup>を体験した方からのメッセージはとても心に響きました。平和記念資料館では、原爆<sup>げんばく</sup>の悲惨<sup>ひさん</sup>さを残す展示物や写真等を、音声ガイドを聞きながら見学しました。あまりの悲惨<sup>ひさん</sup>さにいつもなら会話しながら見学する娘と、お互い<sup>たが</sup>言葉が出ないまま一つ一つ見て回りました。影<sup>かげ</sup>だけ残して消えてしまった方、放射能<sup>ほうしゃのう</sup>の影響<sup>えいきょう</sup>で苦しんで苦しんで亡くなった方。人が作り、人の手によって作り出された地獄<sup>じごく</sup>。繰り返してはいけないものなのだと改めて思いました。

広島のみならず平和記念資料館も外国の方も含めてたくさんの方が見学していました。世界が平和になること、国境<sup>こっきょう</sup>を越えて伝わってほしいと思いました。

今回の広島派遣に参加できて、原爆<sup>げんばく</sup>、命の大切さ、平和について考える良い体験ができました。この体験<sup>むすめ</sup>を娘と一緒にたくさんの人に伝えていきたいと思います。

最後に、今回このような貴重な体験を親子でさせていただき、関係者<sup>みなさま</sup>の皆様<sup>かんしゃ</sup>に感謝<sup>いた</sup>致します。ありがとうございました。

## ◎高橋 伸尚

『灼熱<sup>しゃくねつ</sup>の炎<sup>ほのお</sup>、全身に突き刺さる痛み、空腹を忘れるほどの喉<sup>のど</sup>の渇き、そこら中から聞こえる叫び、言葉にできないような異様なにおい・・・』目を閉じると当時の光景が容易に想像できます。この地獄<sup>じごく</sup>を経験された方々の言葉や残された当時の資料、遺品<sup>いひん</sup>からは、二度と過<sup>あやま</sup>ちは繰り返さないという強い意志<sup>いし</sup>と共に、未来への温かい希望、折れない心を感じ取りました。

平和宣言で「ただ悲観<sup>ひかん</sup>するのではなく、他者を思いやる気持ちと対話で信頼関係を築<sup>きず</sup>き、音楽や美術などを通じて平和を共有できる世界を創<sup>つく</sup>っていきましょ



う」と市長がおっしゃっていました。まさにそのとおりだと思います。戦争をやりたくてやっている人は誰一人いません。誰も得しません。トップに立つ人の<sup>めんつ</sup>面子だけです。トップの考え方次第です。それを変える為、いかなる場合でも人の命を最優先に、対話・共感・願いで明るい未来を<sup>つく</sup>創るというのを伝えていきたいと思います。

「戦争、<sup>げんぱく</sup>原爆、平和」について改めて親子で考えることができた3日間でした。ありがとうございました。

## ◎田中 祐輝

私は自分の<sup>そ ぼ</sup>祖母から平塚<sup>くうしゅう</sup>大空襲の話<sup>はなし</sup>を少ししか聞いたことがありません。

今回の<sup>はけん</sup>広島派遣で一番心に残ったことは、<sup>ますおか</sup>増岡さんが<sup>ひばく</sup>被爆体験をどんな事があっても話し続けている事です。平和記念式典の平和の<sup>ちか</sup>誓いで、小学生の1人が「私の<sup>そう ぼ</sup>曾祖母は当時の様子を語ろうとはしません。」と言ったことが、本当に<sup>ひばく</sup>被爆した方の戦争、<sup>げんぱく</sup>原爆の<sup>おそ</sup>恐ろしさを表した言葉であると感じました。その中で<sup>ますおか</sup>増岡さんは93歳になっても<sup>つら</sup>辛い<sup>ひばく</sup>被爆体験を語っているのに<sup>かんめい</sup>感銘を受けました。

<sup>はけん</sup>派遣最終日、平和記念資料館にて当時の戦争の様子・<sup>げんぱく</sup>原爆被害の様子等を見ました。私が<sup>ひばくしゃ</sup>被爆者であったなら、<sup>ますおか</sup>増岡さんのように<sup>ひばく</sup>被爆体験を語れるのか、考えさせられました。

あと数年したら増岡さんのように<sup>ひばく</sup>被爆体験を語れる方はいなくなります。私たちはこの戦争を風化させず、<sup>はけん</sup>広島派遣で感じたことを伝える事が重要になると思います。<sup>ますおか</sup>増岡さんたちの努力を<sup>む だ</sup>無駄にせず、私たちが戦争について色々な人たちにもっと考えてもらえるよう、<sup>ますおか</sup>増岡さんたちの思いを少しでも語り<sup>つ</sup>継げるよう努めたいと思います。

今回、このような<sup>はけん</sup>広島派遣という貴重な体験に参加させていただきありがとうございました。この<sup>はけん</sup>派遣事業で<sup>こども</sup>子供が少しでも何か感じる事が<sup>でき</sup>出来ていれば<sup>さいわ</sup>幸いです。今後ともこの事業を<sup>けいぞく</sup>継続させていただき、少しでも戦争の<sup>こわ</sup>恐さ・<sup>つら</sup>辛さを知ってほしいと思います。



平和記念式典 こども代表による平和への誓い

### (3) 事後まとめ会

A班、B班、C班、D班に分かれ、市民広島派遣に参加して「平和について感じたこと、考えたこと」をテーマに、新聞記事や写真等を用いて報告書（壁新聞）を作成しました。

～A班～

作成風景



発表風景



報告書

～ B班 ～

作成風景



発表風景



報告書

～ C班 ～

作成風景



発表風景



～ D班 ～

作成風景



発表風景



報告書

#### (4) その他

8月12日に平塚市総合公園で実施した市民平和の夕べにおいて、市民広島派遣の報告を行いました。



市民平和の夕べの様子



## 2 派遣者

(1) 派遣者数 10組20人

(2) 派遣者（順不同、敬称省略）

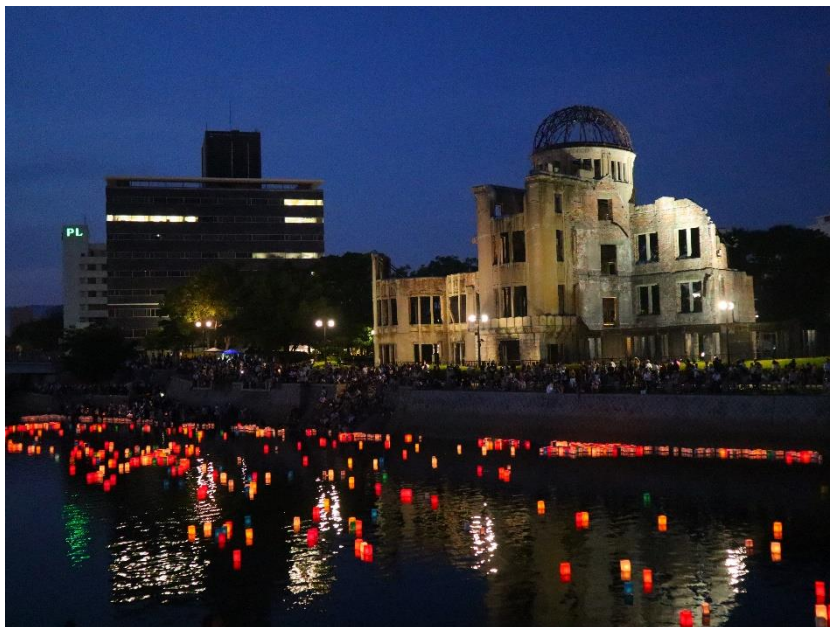
| 班 | 氏名                | 学年      |
|---|-------------------|---------|
| A | たかなし かほ<br>高梨 香帆  | 江陽中3年   |
| A | ひづめ こゆる<br>日爪 こゆる | 山下小6年   |
| A | ながやま はるま<br>長山 陽馬 | 大野小6年   |
| A | いのうえ ほく<br>井上 輔久  | なでしこ小6年 |
| A | おきやま そら<br>沖山 空   | 相模小4年   |

| 班 | 氏名（保護者）            |
|---|--------------------|
| C | たかなし たいし<br>高梨 大志  |
| C | ひづめ こうすけ<br>日爪 康介  |
| C | ながやま ともこ<br>長山 智子  |
| C | いのうえ ゆきこ<br>井上 由貴子 |
| C | おきやま ともこ<br>沖山 友子  |

| 班 | 氏名                | 学年    |
|---|-------------------|-------|
| B | やなぎさわ そら<br>柳澤 大空 | 山城中3年 |
| B | やまだ あゆな<br>山田 彩由奈 | 江陽中1年 |
| B | おおさわ ゆい<br>大澤 結衣  | 花水小6年 |
| B | たかはし れなと<br>高橋 玲翔 | 港小5年  |
| B | たなか めい<br>田中 芽依   | 花水小5年 |

| 班 | 氏名（保護者）             |
|---|---------------------|
| D | やなぎさわ やえこ<br>柳澤 八重子 |
| D | やまだ ゆうこ<br>山田 優子    |
| D | おおさわ みゆき<br>大澤 美幸   |
| D | たかはし のぶたか<br>高橋 伸尚  |
| D | たなか ゆうき<br>田中 祐輝    |

※事務局として、行政総務課職員2人が随行しました。



### 3 行程の記録

|            |           |                                                               |
|------------|-----------|---------------------------------------------------------------|
| 7月22日（月）   | 事前打合せ会    | 教育会館1階実技研究室<br>自己紹介、日程・注意事項等の説明                               |
| 8月5日（月）    | 午前 6時00分  | 平塚駅北口集合                                                       |
|            | 午前 6時20分  | 平塚駅発                                                          |
|            | 午前 10時40分 | 広島駅着                                                          |
|            | 午前 11時30分 | 宿舎着                                                           |
|            | 午後 1時15分  | 平和記念公園内原爆の子の像に<br>千羽鶴を献納                                      |
|            | 午後 1時45分  | 旧日本銀行広島支店を見学                                                  |
|            | 午後 2時20分  | 袋町小学校平和資料館を見学                                                 |
|            | 午後 3時20分  | 被爆体験者の体験談・質疑応答<br>増岡 清七 氏                                     |
| 8月6日（火）    | 午前 8時00分  | 広島市原爆死没者慰霊式並びに<br>平和祈念式に参列                                    |
|            | 午前 10時00分 | ひろしま子ども平和の集いに参加                                               |
|            | 午後 7時15分  | 灯ろう流しに参加（元安川爆心地付近）                                            |
| 8月7日（水）    | 午前 9時20分  | 平和記念資料館を見学                                                    |
|            | 午後 2時10分  | 広島駅集合                                                         |
|            | 午後 2時40分  | 広島駅発                                                          |
|            | 午後 7時20分  | 平塚駅着・解散                                                       |
| 8月12日（月・休） | 市民平和の夕べ   | 市民広島派遣の報告                                                     |
| 8月23日（金）   | 事後まとめ会    | 市役所本館5階519会議室<br>「広島派遣に参加して、平和について感じたこと、考えたこと」をテーマに、壁新聞を作成・発表 |

## かくへいきはいぜつへいわ と し せんげん 核兵器廃絶平和都市宣言

わたくしたちのまち平塚は、過去に戦災を被り市域の多くを焼失した悲しい歴史をもっています。そして今のわたくしたちには、こうした惨禍をくり返すことのないよう、平和を守り次代へ引き継いでいく責務があります。

しかし、現在地球上には、数多くの核兵器が蓄えられ、人類に深刻な脅威を与えています。

世界の平和と安全は、すべての人の願いです。平塚市は、「国際平和の年」を迎えるにあたり、美しい地球と輝かしい未来を守るため、国是である非核三原則の順守とあらゆる核兵器の廃絶を願い、「核兵器廃絶平和都市」を宣言します。

昭和60年12月20日

平塚市



平和モニュメント「マザーアース」